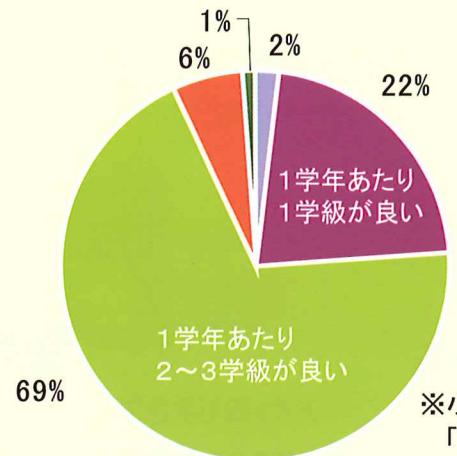


保護者の皆さんのご意見を聞きました!!

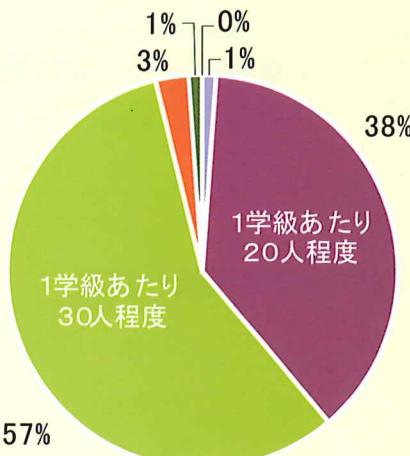
【平成 19 年 11 月 小学校保護者アンケートより 回答者数 = 1,916 人】

学級数はどの程度が望ましいか



※小学校標準規模
「1学年当たり2~3学級」

児童数はどの程度が望ましいか



■ 1学級あたり10人程度 ■ 1学級あたり20人程度
■ 1学級あたり30人程度 ■ 1学級あたり40人程度
■ その他 ■ 無回答

「1学年あたり 2 ~ 3 学級が良い」が全体の 69% を占めている。

「1学級当たり 30 人程度」が 57% で最も高く、次いで「1学級当たり 20 人程度」が 38% を占めている。

将来の稻敷市の小学校（平成 28 年までの推計）

	平成21年度	平成28年度
過小規模校 (1~5学級)	新東小	君賀小 太田小 あずま南小 新東小
小規模校 (6~11学級)	鳩崎小 君賀小 高田小 根本小 柴崎小 太田小 阿波小 浮島小 古渡小 あずま南小 あずま北小 あずま西小 あずま東小	鳩崎小 高田小 根本小 柴崎小 阿波小 浮島小 古渡小 あずま北小 あずま西小 あずま東小
適正規模校 (12~18学級)	江戸崎小 沼里小	江戸崎小 沼里小

○学校教育法施行規則第 17 条及び第 55 条の小学校の「学級数は 12 学級以上 18 学級以下を標準とする」（各学年 2 ~ 3 学級）を適正規模とすると、稻敷市では適正規模にある学校は 2 校のみとなります。

○他の学校は、11 学級以下の小規模校、過小規模校となります。

○今後も児童数減少の傾向は続き、平成 28 年度における過小規模校は 4 校となる見通しです。

学校規模による子どもたちへの影響

小規模校のメリット

□学習面

- ひとりひとりの個性や特性に応じた教育活動が行いやすい。
- 学校全体での児童の掌握が容易になる。
- クラス替えがないので、友達同士の関係が深まる。

□生活面

- 全校の児童・教職員の一体感が深まる。
(年上との関係が深まりやすい)

□学校運営面

- 教員相互の連絡調整や連携が取りやすい。
- 学校内の教育活動等に一貫性を持たせやすい。
- 教室・体育館・校庭などに比較的余裕があり、活用しやすい。
- 校外行事の場所の選定、活動内容や安全面での制約が少ない。



小規模校のデメリット

□学習面

- 集団規模が小さいと体育・音楽等での学習そのものの成立が難しい。
- 競い合う機会が少くなり、運動会などの集団活動の活性化が難しい。
- 話し合いや共同作業的な活動で、学習内容の深まりや広がりが難しい。
(多様な意見や活動に発展しにくい。)



□生活面

- 少人数の場合、価値観が固定化されがちになり、多様な考え方、人間関係をつくる機会が少なくなる。
- 児童の教師への依存が強くなり、自主性・主体性や社会性などが育ちにくい。

□学校運営面

- 少ない教員で運営することになり、個人負担が増す。
- 教員相互の連携や切磋琢磨する機会が少くなる。
- 緊急時や学級経営に問題が生じた場合等、他の教員による支援体制を構築できない。

稻敷市における小学校の適正規模と適正配置

小学校の適正規模

12 学級～ 18 学級

(1学年2~3学級程度)

小学校の適正配置

江戸崎地区 → 小学校 5 校のうち 3 校が小規模校であることから、通学区域の変更による統合を検討

新利根地区 → 小学校 3 校の全部をもって統合

桜川地区 → 小学校 3 校の全部をもって統合

東地区 → 小学校 5 校の全部をもって統合

新たな場所に
学校を設置

稻敷市における学校再編のスケジュール

学校名	学校の規模		再編案			H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	
	H21		H28		地理 条件	施設 条件	再 編 策									
	学級	児童数	学級	児童数												
江戸崎小	12	361						前期					後期			
君賀小	6	63	13	438												
鳩崎小	6	90														
沼里小	12	345	9	232				維持	維持	維持						
高田小	6	175	6	143				維持	維持	維持						
根本小	6	100														
柴崎小	10	263	12	360												
太田小	6	95														
阿波小	6	111														
浮島小	6	86	7	223												
古渡小	6	95														
あずま 南小	6	71														
あずま 東小	6	166														
新東小	4	43														
あずま 北小	6	127														
あずま 西小	6	156	17	522												

※H21の学級、児童数は、平成21年5月1日の通常学級数と在籍者数

※H28の学級、児童数は、平成21年10月1日現在の住民基本台帳の人口より推計

稻敷市 学校再編計画 概要版 (平成22年3月)

発行：茨城県 稲敷市 教育委員会 教育総務課

〒300-1492 茨城県稲敷市柴崎7427

【TEL】029-892-2000(代)

【FAX】0297-87-4974

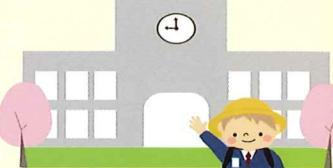
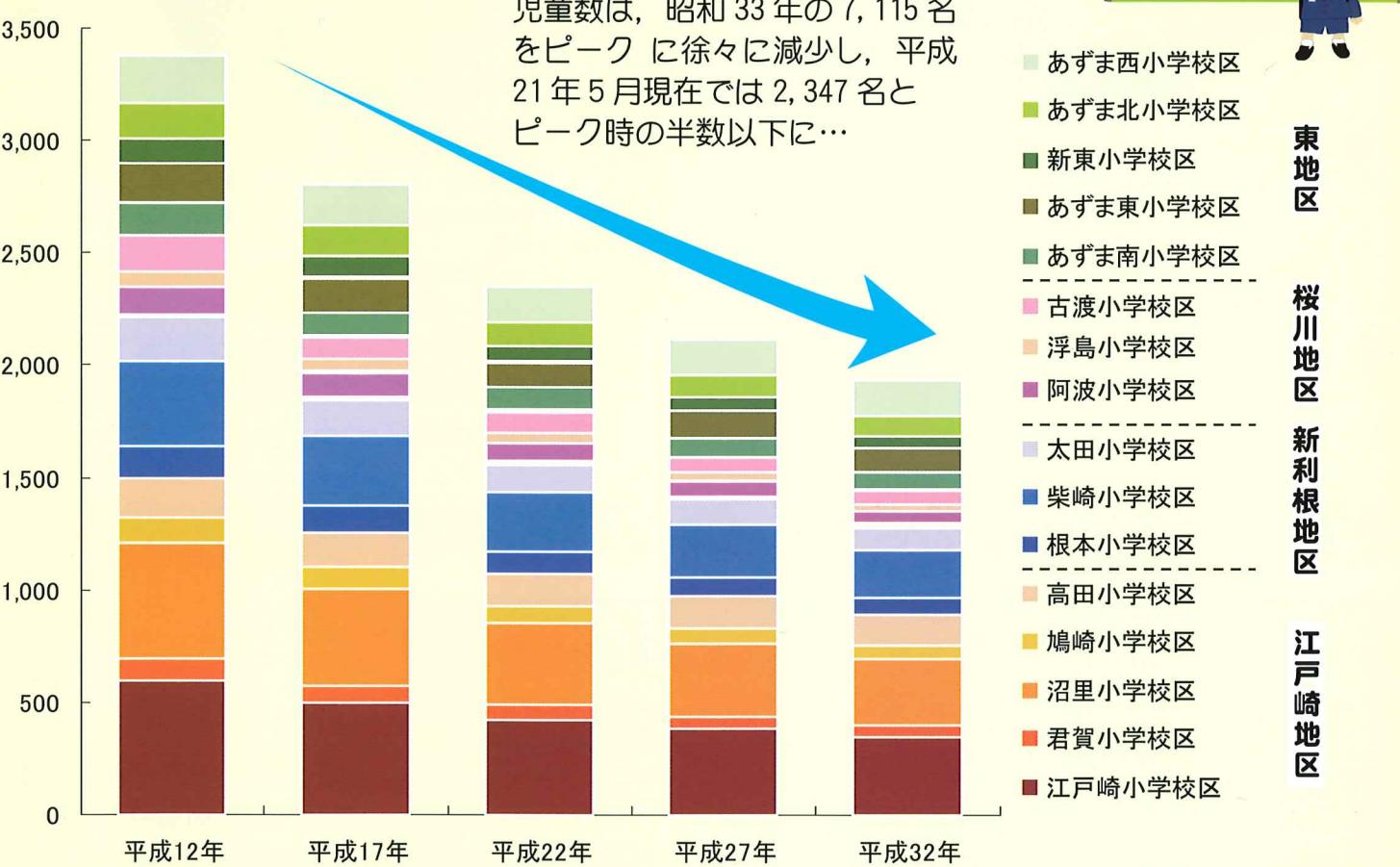
【E-mail】kyouiku@city.inashiki.lg.jp

稻敷市における学校再編について

稻敷市では、平成20年8月に出された「稻敷市学校及び幼稚園適正配置検討委員会による「稻敷市学校及び幼稚園適正配置の基本的な考え方について」(答申)」を受けて、稻敷市における小学校の再編に関する計画をまとめました。

子どもたちに対する望ましい教育環境の確保という視点を重視し、平成22年度～31年度(10年間)を計画期間としています。ここでは、これらの計画の概要、今後のスケジュール等についてお知らせします。

■稻敷市の小学校の現状と課題



東地区

桜川地区

新利根地区

江戸崎地区

現在、稻敷市の小学校が抱える課題

○稻敷市は、小規模な小学校が多い。

○平成22年度における小学校は16校であり、人口規模からすると過剰な状況。

○中学校区の単位(旧町村単位)のまとまりと地域コミュニティの関係が重要。

○学校再編は、遠距離通学などの問題を生むとともに、保護者と子どもへの負担増にもつながる恐れがあることから、地域住民や保護者の意向を把握しながら検討を進めることが重要!!

○児童数の推移

- 昭和33年の7,115名をピークに徐々に減少
- 平成21年5月現在では2,347名と半数以下

○現在の児童数の状況 (平成21年5月現在)

- 市内16校中、児童数300名以上は2校のみ
- 100名以下の学校が8校

○学級の状況

- 6学年すべて2クラス以上の学校は2校
- 複式学級1校
(2～3学年、4～5学年がそれぞれ1学級)